

かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します。

駒形理事長回想紀行 「人間回復の橋」を知っていますか？⑤

▽私が最も心を打たれたのは、1人のハンセン病患者様の訴えに真摯に耳を傾け、その解決を図るために力を尽くした弁護士と、辞表を胸に小泉首相に控訴断念を迫った坂口大臣に敬意を示すとともに、昭和53年にハンセン病の患者様たちが親族から強制的に隔離された状態を見聞きしていながら、「らい」予防法による措置であり致し方ないと考えて、いつの間にか忘れてしまったことに大きな反省を感じました。▽なぜ、私の中で長島愛生園での強烈な記憶が「徐々に忘れさられ風化」していったのか？研修を終え、急性疾患や悪性腫瘍の治療に集中していた私にとって、既に特效薬といえる治療法もあり、専門の療養施設も出来ているハンセン病は、医師としての役割はほとんどないと考えていたからだと思います。▽そのような中で、友人の勤務する病院をお手伝いしながら在宅治療の存在を知り、通院困難となった患者様、難病や悪性腫瘍で病院での積極的(根治的)な治療が困難となり、自宅療養されている患者様の存在と実態を知り、次第に在宅医療に足を踏み入れていきました。▽平成6年当時、在宅医療は「隙間産業」と揶揄されており、その後日本の高齢化に伴い、入院や外来医療に次ぐ「第三の医療」と言われるまでになりましたが、それでも新しい医療サービスの恩恵にあずかれず、医療福祉のセーフティーネットからこぼれ落ちたり見過ごされたりする人も少なからず散見されました。特に臓器別専門分野別の医療体制化で、複数の疾患や状態に対応が必要な患者様は、なかなか病院の受け入れが難しい場合をしばしば経験いたしました。(次号「回想紀行」連載⑥に続く)

編集後記～スタッフのつぶやき～

皆さま明けましておめでとうございます。2022年になりました。本年も「かつしか心身総合クリニック」をどうぞよろしくお願いいたします。▼さて、年末年始の人流増加の影響でしょうか。新型コロナがまた流行の兆しです。新しい「オミクロン株」も増加傾向です。「感染しやすいが重症化はしにくい」などと報道されていますが、実際まだ不明な点が多いようです。今年の冬は寒いですが、マスク着用、換気、消毒などをしっかり継続し、皆さまの安全安心を守りたいと思います。ご理解とご協力をお願い申し上げます。(K)

医療財団法人ファミリーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町1-41-1 桜井ビル2階

①外来：心療内科＝大川昭宏院長、永井斐子副院長
内科＝駒形清則医師(第2・第4火曜のみ)

②訪問診療

内科＝駒形清則医師、成相雅奈医師

駒形明紀医師(非常勤)

精神科＝米谷充医師(非常勤)

神経内科＝今井壽正医師、西岡健弥医師(非常勤)

※詳しくはホームページをご覧ください、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL03-3627-0233